

令和7年度 山形県歯科医師
会学術講演会

ザ・臨床

【対象】

山形県歯科医師会会員・スタッフ等・
医師・医療関係者等

本年度のザ・臨床は
対面形式で開催いたします。
ぜひ多数ご参加ください。

【会場】山形県歯科医師会館

【開催日時】

2025年

7月26日 土

14:30 ▶ 17:30

演題 パノラマX線写真による顎骨の脆弱化から
診る骨粗鬆症および口腔疾患

講師 松本歯科大学歯学部
歯科放射線学講座

教授 田口 明 先生



【抄録】

日本では骨粗鬆症に起因する骨折患者が増加の一途にあります。骨折はQOLの低下に加え、死亡率にも多大に寄与します。大腿骨骨折後の5年生存率は49%、10年生存率は26%と大多数の癌の予後よりも悪く、骨折入院関連医療費は日本では年間約2兆円に迫る勢いです。日本には約1590万人の骨粗鬆症患者がいますが、椎体骨折者の三分の二は症状がなく、病院を受診しません。また厚生省の検診率も約5%前後で永らく推移し、400万人程度しか治療（食事療法、運動療法含む）は受けていません。海外では早期の骨粗鬆症スクリーニングにより全骨折は16%低下、死亡率も15%低下と報告されています。所謂、骨折前の骨粗鬆症患者のスクリーニングにより、骨折率も死亡率も低下することは実証されています。

我々は1992年より、パノラマX線写真上の下顎骨下縁皮質骨の脆弱化が骨折前の骨粗鬆症患者を見つける有力な手法であるという根拠を蓄積してきました。日本歯科放射線学会では2021年に診療ガイドラインの策定を行い、日本骨粗鬆症学会および日本整形外科学会からの協力の意向も得ました。一方、骨粗鬆症は慢性歯周炎や根尖性歯周炎の発症に関与し、歯の喪失リスクに影響すると言われています。即ち、顎骨脆弱性の評価は骨粗鬆症患者のスクリーニングのみならず、口腔疾患の増悪を評価できる可能性があります。本講演では骨粗鬆症早期発見に加え、口腔疾患の増悪の評価についての知見も報告いたします。

講演後には50枚のパノラマX線写真を用いて皆様の骨粗鬆症スクリーニングのトレーニングを行います。日常臨床におきまして、パノラマX線写真で顎骨の脆弱化を検知して、骨粗鬆症患者のスクリーニングおよび口腔疾患の増悪の予測に用いて頂ければと思います。

プログラム（予定）

14:30 開会・講師紹介

・講演
・トレーニングセッション
・質疑応答

17:30 閉会

■機材展示等



【申込方法】

受講希望の方は、右記二次元コード・山形県
歯科医師会HPより7月18日(金)まで 山形
県歯科医師会にお申込みください。

